

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100400		
法人名	有限会社 花のある家		
事業所名	グループホーム 花のある家		
所在地	〒849-0306 小城市牛津町勝813-2		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年3月24日	外部評価確定日	平成29年4月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">施設内に併設している家庭菜園で収穫された野菜も調理に利用しています。桜・コスモス等の季節を感じる様に、外出行事を行っています。月に1回の昼食レクレーションとして、入居者様参加のたこ焼き実演を行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>管理者は市担当者へ問い合わせをすることも多く、疑問点や不明な点は疎かにせず確実に回答を求めている。自然災害も含め緊急時の避難を想定する時、様々な課題に気付き、事前の確認を行っている。このことは利用者の安全を確保することにも繋がる。運営推進会議で公開されているため、他の出席者にとっても知識となり得る内容がある。また、ヒヤリハットについては小さなことでも記録することとしており、日々のケアに真摯に向き合う姿勢と改善に活かす体制が伺える。更に、敬老の日企画として利用者それぞれに一年分の写真集を作ったり、思い出の地を訪れたりしていることも「家庭的な雰囲気の中で」、「安らぎのある日常生活を」と謳った理念に沿っている。</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口、ホールに理念を掲示している。一人一人の人間としての尊厳を重視したケアを行い、理念の実践に向けて取り組んでいる。	理念は、自ら事業所を立ち上げようと決めた施設長が想いを込めて創り上げたものである。開設して15年目を迎えているが変更はない。玄関から入ってすぐの所に掲示している。理念が常に立ち戻る基本であることから、目に付きやすい場所に掲げ、職員の意識付けを図っている。「尊厳」「家庭的」という言葉がある通り、職員の利用者に対する姿勢や、ゆっくり優しく話す様子にはそれが活かされているのがうかがえる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加する様にしており、毎月区長さんが市報配布で来所されている	自治会に加入している。地域の情報は区長が配布してくれる広報紙や運営推進会議の話題の中でもたらされている。事業所の行事に地域住民を招くことはないが、地区の夏祭りには利用者と一緒に出向き楽しみにもなっている。事業所近くに自宅がある利用者もいて友人等の訪問がある。避難訓練には参加協力してくれる隣人もあり、見守りや連絡を頼める関係は築けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	活かしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活かしていない	約一時間の会議には地域の方や利用者本人とその家族、行政側は代理であっても出席者を出している。運営推進会議は外部の人の目が入る貴重な機会であり、それが出席者にとっても有意義なものとなるよう努めている。質問等があれば行政側へ問い合わせることも多く、次回へ繰越しても必ず回答は伝えている。議事録は全ての家族へ配布されている。外部評価の結果についてはこの会議で報告され、その資料は玄関に置き来訪者が縦覧できるようになっている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に「おたっしや本舗」と民生委員さん及び区長さんへの参加要請をしており、市町村との協力関係の構築に積極的に取り組んでいる	市担当者には不明な点などあれば問い合わせをすることも多い。顔見知りであり、相談や質問等も言い易い関係である。まず電話で連絡を取り、場合によっては出向くこともあるが、実直に対応してもらえる関係は築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在身体拘束の方がおられ、4ヶ月間の使用期間を設定し約10日間置きに経過観察と検討会を実施し記録しており、拘束時間短縮も実現しておりますそして解除出来る様に取り組んでおります。	指針があり、入居時に説明をしている。玄関の施錠はしておらず、場合によってセンサーのスイッチを入れることもある。鍵を掛けないことで職員は常に目配りをし、安全にも配慮している。仮に外へ向かう利用者があれば一緒に屋外へ出て、納得するまで暫く歩くというのが基本である。無理に引き返すことはない。また、不適切なケアがみられた場合も時を置かず指導することとしている。現在、了承を得て身体拘束を行っている利用者があるが、止めるための工夫もあり拘束時間は徐々に短くなっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成25年2月より「虐待の芽チェックリスト」を活用し、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	支援しており昨年11/8社会福祉士会主催の成年後見制度研修に参加し、内容を施設定例会議で取り上げております		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を設置しており、また運営推進会議の内容を施設内玄関口に置いて公開している	来所は家族によって様々である。あまり来られない家族への連絡は、緊急ではない限り電話も控えている。意見箱への投函は過去に一件のみで、家族の要望等を汲み取るため来所時のコミュニケーションを大切にしている。運営推進会議でも発言を歓迎しており、そこで出された外出先の提案には後日対応している。事業所の外にも苦情相談の窓口があることは書類に明記され、説明も行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員参加での会議を開催している	月一回の職員会議は昼食後に30分程度、当日の勤務者のみで開いている。休みの職員は会議ノートで内容を確認することになる。ケアの目配りもしながら短時間で周知事項とヒヤリハットの再確認、研修報告等が行われている。また、申し送りノートで周知を図る時は、職員が納得できるようその理由も書いている。施設長は、職員と一緒に食事の用意等も行いながら、現場の状況も把握するよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務時間中での外部研修講習の機会を確保し定例会議で発表を行っております		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の方が多数参加される外部主催の研修講習参加で同業者との交流の機会を作り取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	全職員が行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	随時行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	随時行っている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る様に努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている	入居までの日常や周囲との関係、生き方等は、本人や家族、担当していたケアマネジャー、場合によっては利用していたサービス事業所からも話を聞いている。これらを把握した上で、入居後も関係が続いていくよう支援している。家族の協力を得て墓参りへ出掛けたり、電話の取次ぎや年賀状の手伝いも行っている。また、敬老の日企画として、各々に思い出の場所を尋ね、一緒にそこを訪れたことがある。懐かしい地域の地名や呼び名を頼りに、家族からも情報を得て出掛けている。写真を撮ったり、偶然に旧知の方と出会ったり、利用者にとっては嬉しいひとときとなった。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご希望・必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている	職員が日頃のケアで心掛けていることは利用者をよくみることである。見ると看るのどちらも含んでいる。目配りと気配りのなかで利用者の些細な変化にも気付けるよう努めている。また、入浴中の寛いだ時間や、傍らで話し相手をしている時には想いを話してくれたりもする。聞き取ったことは申し送りノートに記し、職員間での共有を図っている。そこから介護計画へ反映させることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	出来ている。	本人の想いは日頃のケアの中で把握し、家族の要望等は来所時の話から汲み取っている。介護計画の設定期間は3ヶ月ごととしているが、変化があれば臨機応変に見直している。家族の要望で多いのは体力等の維持である。廊下での歩行訓練や車椅子を自走させる筋力運動等を計画に入れ支援している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	許される範囲内で取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	支援している	利用者の殆どは協力医がかかりつけ医である。入居時に変更となるケースも多く、2週間に一度の訪問診療があることは理由のひとつである。他の診療科目で定期的な受診の必要がある場合は家族に付き添いをお願いし、それ以外では職員が対応している。診療結果について、特別な変化がなければ報告を控えることは入居時に説明している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	取り組んでいる	指針があり、入居時に説明も行っている。これまでに看取りの経験があり、今後も希望があればその用意はある。協力医との連携は事業所にとっても心強いものである。また、職員の不安をフォローするため全員に勉強用資料が配付されている。容態の変化に伴い話し合いを重ね、家族も納得して最後が迎えられるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応マニュアルを作成し職員に配布しており、常に対応出来る様に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	体制を築いており、また平成26年1月からスプリンクラーを設置しております	年2回、昼間帯に火災を想定した避難訓練を行っている。消防署の立会もあり、利用者も一緒に避難を体験している。事業所周辺には訓練が周知され隣人の参加もある。全ての職員は消火器や火災通報装置の使い方を承知しており、スプリンクラーの設置もある。一次避難場所を近くの公民館とし、家族へは周知済みである。非常食の備蓄はないがスポーツ飲料の備えはあり、利用者の着替え等を入れたリュックは常に非常口にある。天井にある排煙設備の使い方の再確認や家具の固定は今後の課題とし、訓練で指摘等があれば速やかに見直しを行っている。また、事業所には自然災害での避難経験がある。避難する際の車両や雨雲予想など情報の重要性を改めて自覚し、課題解消に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている	日常のケアでは、入浴やトイレの介助もプライバシーへの配慮を必要とする場面である。事業所ではできる限り同性によるケアを心掛けている。また、所内に掲示している利用者のスナップ写真や居室の名札については、来訪者が自然に目にしてしまうことから本人や家族の承諾を急ぐこととしている。これ以外の個人情報に対する職員の意識は高く、責任ある取扱いと管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている	献立は施設長が作り、利用者から食べたい物のリクエストがあればすぐに対応もできる。好き嫌いやアレルギーの把握もしている。広いリビングと台所に仕切りはなく、料理を作る音や匂いがして五感を刺激している。簡単な調理や後片付けを手伝う利用者もある。食欲は体調もあり日によって違う。なかなか箸が進まない人へは声掛けや皿を動かして促すことはあるが、無理に勧めることはない。誕生日は必ず当日に祝い、ケーキを用意している。食事中、職員は傍らで見守り、必要に応じて介助をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っている	排泄に関して自立した利用者も複数名いる。しかし任せたままでなく、さりげなく見守り、把握もしている。チェック表に記しパターンを知る事で布製の着下へ改善した例もある。日中は殆どがトイレでの排泄を主としているが、夜間でも起床し誘導している利用者もある。便座周りにある手摺り等の設置は立ち座りを補助し、自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	時間帯は勤務体制で日中の入浴になっている。入浴は2日に1回と施設サービス計画に入れている	入浴は原則一日置きとしているが、必要があればその限りではない。シャンプー・ソープ類は事業所で用意している。拒む人にはタイミングをずらしたり、清拭等に対応することもある。脱衣場は広く、冬場は温風ヒーターで温度管理されている。また、そこにはトイレがあり、急な事態でも対応できている。衣服の脱ぎ着はできるだけ本人に任せ、職員は羞恥心にも配慮しながら見守っている。	利用者が衣服を脱ぎ着する際に使っているのは折りたたみパイプ椅子である。転倒も危惧されることから、しっかりと安定した椅子への変更が望まれる。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援に努めている	利用者から出掛けたいとの希望が聞かれることはないが、開花情報などの話題には興味を示してくれる。ドライブには職員の車を利用しているため、車椅子は目的地まで畳んで載せて行くことになる。また、事業所周辺への散歩は日常的に行っている。その際、杖の代わりに車椅子を押してもらうことで、杖よりも転倒の防止になっている。外出を拒む人には、まず居室からリビングまで歩き、動いてもらうようにしている。日差しを浴びることの効果も考え、リビングからその先へと様子をみながらの対応としている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援に努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮している	東西の廊下には安定感のあるゆったりとした椅子が置かれている。そこは利用者が外を眺めながら話ができる場所である。廊下では歩行訓練をする利用者もあるが、それが妨げになることはない。玄関やリビングには季節を感じる飾り付けがあり、無垢材を使った床は暮らしと共に味わいを出している。長閑な田園の中に位置する事業所では車の騒音もない。強い日差しには防災カーテンで調節している。掃除は職員が行い、浴室やトイレもきれいに掃除されている。換気にも配慮され嫌な臭気はない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	工夫している		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの部屋はないですが、居室は利用者様の好みを活かしている	居室に持ち込む品物は使い慣れた物をお願いしている。火気等の危険物以外に制限はしていない。タバコを吸う利用者もいない。居室には家族の写真や花などが飾られ、掃除は職員が行っている。オムツやパット類が無造作に置かれることはなく整頓されている。家族が希望すれば宿泊も可能で、看取り時期に利用した家族もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない